

■仁木悦子 推理小説家。生涯車椅子生活、「猫は知っていた」でデビュー。戦死者妹らの会(かがり火)ほか文化的活動も。

にきえつこ
共産党事件・1928＝ 東京府豊多摩郡渋谷村で、大井光高の四女に生まれる。母は福子。本名三重。

幼時から病気がちで、

満州事変・・1931＝ 3歳：
五一五事件・1932＝ 4歳：_胸椎カリエスを発病、発見が遅れたため、両足が麻痺、以後、寝たきりの生活となる。

芥川直木賞始1935＝ 7歳：父が死去したため、母とともにサナトリウムに入り、
二二六事件・1936＝ 8歳：退院して、上京。

日中戦争始・1937＝ 9歳：
_学校へ行けず、独学を続け、

日米開戦・・1941＝13歳：
この間、長兄は戦死し、母も死去。

敗戦・・・1945＝17歳：
新憲法公布・1946＝18歳：
戦後は、次兄の家族と住み、_童話を書き始め、

独立回復・・1951＝23歳：
自衛隊発足・1954＝26歳：{こどもクラブ}の懸賞に「白い雲、黒い雲」が入選。その後も、しばしば童話の懸賞に応募、うち1作は小学校国語教科書に採用され、日本児童文学協会会員にもなる。姉の影響で推理小説に興味を持ち始め、

55年体制始・1955＝27歳：
国連加盟・・1956＝28歳：_仁木悦子の名で「猫は知っていた」を執筆、{河出書房}の推理小説コンクールに応募するも、
なべ底不況・1957＝29歳：*同社が破綻。江戸川乱歩の勧めで公募になった江戸川乱歩賞を受賞し、女流推理作家として売出す。
インスタントメン・1958＝30歳：5回の手術を受けて、車椅子生活が可能になる。「粘土の犬」、
美智子妃・・1959＝31歳：「林の中の家」、
安保闘争・・1960＝32歳：「殺人配線図」、
タイタイ病始・1961＝33歳：「刺のある樹」「赤い痕」。*女流水理小説作家の組織{霧の会}を結成。
全国総合計画1962＝34歳：「黒いリボン」。歌人で翻訳家の後藤安彦(本名二日市安)と結婚。
東京オリンピック 1964＝36歳：「二つの陰画」、

いざなぎ景気1966＝38歳：「枯葉色の街で」、

投稿が{朝日新聞}の投稿欄“ひととき”に掲載されたことがきっかけとなって、

ドミノショック・・1971＝43歳：_戦死した兄の世代の無念を思い{かがり火の会}を結成し、
日中国交回復1972＝44歳：_文集「妹たちのかがり火」、
石油ショック1973＝45歳：_「妹たちのかがり火」第2集、

クアランゴール事件1975＝47歳：「夏の終る日」「青じろい季節」
田中角栄逮捕1976＝48歳：翌年にかけて「仁木悦子長篇推理小説全集」全5巻、
JALハイジャック・1977＝49歳：「灯らない窓」、
成田衝突・・1978＝50歳：「凶運の手紙」「緋の記憶」、
革新大敗北・1979＝51歳：「みずほ荘殺人事件」「暗い日曜日」「穴」「死の花の咲く家」。_都条例に反撥して結成された{自然と動物を考える市民会議}の代表となる。

貿易摩擦始・1980＝52歳：「三日間の悪夢」「銅の魚」、編「不思議の国の猫たち」、
・・・・・1981＝53歳：*「赤い猫」で日本推理作家協会短編部門受賞。
中曽根内閣・1982＝54歳：「陽の翳る街」、_「妹たちのかがり火」第3集を出版した。
角栄実刑判決1983＝55歳：「一匹や二匹」、
・・・・・1984＝56歳：「青い風景画」、
明快な文体で、_本格推理小説の原点を守り続けたが、
バブル始・・1986＝58歳：腎不全のため、_没した。